



**SUPER GLOBAL HIGH SCHOOL**

Leave no one behind. We are always with you.

だより

全学年統合版

No 2 : H 2 9 . 7 .

編集 : SGH 推進室

発行責任者 : 宮崎 栄治

3年文型・SGコース  
2年SGコース

## JICA 特別講義がありました!!

6月12日(月)7限に、3年文型・SGコース・2年SGコースを対象に、JICA特別講義がありました。講師は3年半ブータンで勤務された仁田知樹氏(JICA北陸支部長)で、「世にもユニークな国・ブータン～幸せの国に学ぶ～」という演題でお話をいただきました。仁田先生は、ブータンの民族衣装に身を包み、ブータンで生活した中で気づいた大切なことを情熱をもって話してくださいました。ブータンという国を通して、私たちの生き方や価値観を改めて考えさせられる時間だったように思います。

「幸せ」とは何か? 「国際協力」とは何か? 頭も心も揺さぶられた講演だったのでないでしょうか。

東日本大震災後のブータンの方々のことを聞き大切なことに気づかされた。昔の恩返しと2泊3日かけて山を越えてにぎりしめたお札を募金してくださったおじいさん、現地に自ら向かいあたたかい言葉をかけてくださった国王。どれも「恩返し」であるとおっしゃり、温かい気持ちにあふれている。私はその思いに感動した。国際協力とは一方的な支援でなくお互いが互いを思うことで成り立つ恩返しのようなものだ。国境を越えてもお互いのことを思いやり幸せを願って行動することで国際協力という名の幸せの輪が世界をつなぐと思う。

なぜブータンの人々が幸せなのかが一番直結するのは考え方だと自分は思います。日本人が「足るを知る」ことができればもっと幸せに暮らすことができるだろうし、今を大切にできる精神がこの講義によって改めて大事であると考えさせられました。日本には何かがあるのか。日本人は幸福の要因を他のものに依存し過ぎていていると思います。まず自分の考えを変えて、国民一人一人が積極的に現状を知り、満足し、その幸福を他人に分配できるようになれば日本の平等・不平等の諸問題は迅速に解決するだろうと思いました。

国際協力とは、普段家族や友達、近所の人としている助け合いが国境を越えたものであるということに納得した。「国際協力=幸せの分かち合い」を心に留めて、相手を思いやった支援や取り組みができるように課題研究を進めていきたいと思った。



仁田氏による講演の様子

1・2年希望者

## グローバルリーダー養成講座を開催しました!!

6月12日(月)7限終了後の放課後に、1・2年希望者を対象にグローバルリーダー養成講座がありました。講師は、ボリビアで2年間栄養士として勤務された山下絢子氏で、「アルティプラノ地域にて栄養教育・ボリビア他民族国～トウピサ市・オルロ市～」という演題でお話いただきました。“外国人”として言語の壁、文化の違いに苦労しながらも人間関係を構築し、現地の人たちのために働いた経験に触れた生徒達は挑戦することの大切さを感じとっていたようでした。



語学でコミュニケーションをとることが難しくても何かを一緒に行うことを通してコミュニケーションを取ることができるのだと分かった。また、異なる文化や価値観の人と分かり合うには相手の全てを受け入れて自分から相手を理解しようと積極的に話しかけることが大切だと感じた。それは同じ文化の人にも言えると思った。

今までは「英語が話せる人」＝「グローバル」というイメージが自分の中にありましたが、「どれだけ人を受け入れて共に生きていこうとするか」が大切なのだとなり、とても驚きました。

## グローバルのスズメ ～グローバル×私～ file2. 福岡 光輝先生(理科)

1年生版第2回目は福岡先生です。さて、先生の『グローバルな体験』とは…

なぜ、この「グローバル×私」の依頼が私(福岡)に来たのかわからない人も多いと思う。当の本人はというと、「グローバル」という言葉に似あう素養はまだまだ身に着けてはいないが、海外旅行が好きなのである。

今まで行ったことのある国は全部で7か国。韓国・中国北京周辺・台湾・インド北部・ヒューストン NASA・ペルー・ボリビア。まだまだ行きたい国が山ほどある。振り返ってみると、年を重ねるにつれて、「旅行へ向かう姿勢・準備」と「現地で見える視点」が変わってきたように思う。

[高校]の修学旅行で韓国に行った。先生に連れられるがままの身。観光地を回るので、日本語が通じてしまった。[大学]は旅行の日程も自分で計画して決めた。この時の目的は世界遺産巡り。万里の長城、天安門広場、タージマハル。とにかく有名な所に行って、いろいろな経験をしたい。[教員]になってからは地学(理科)を教える身として、現地で学びたいことがたくさん増えていた。教科書に出てくる場所に行きたくてコースも優先して決めたりした。人間いざ行くととなると調べるもの。その地域の地理や歴史を事前に予習することがすでに楽しかった。

インドに行ってみて、驚いたことがある。町を歩くと道端に物をいをするおばちゃんがたくさんすれ違う。観光地のはずれの路地裏を歩いていると少年が僕の空の後ろポケットに手を突っ込んできた。そこに財布があると思って。さらにそんな光景を目の当たりして、インドの生活を肌で感じたりできた。今振り返ると立派なグローバル体験だ。

英語を話すのは楽しい。英語で話して現地の人に伝わった時に海外に来ている感。「言語の垣根を超えて言いたいことがちゃんと伝わる」のがすごく嬉しい。でも、海外を旅行して感じてしたのは「英語は世界万能共通語では無い」ということ。台湾の寂れたホテルで中国語を話せる店員しかいなかったり、南米ペルーではスペイン語が標準的に使われていたりした。英語が全く使えなかった。「グローバル=英語を使う」というイメージは固定概念に過ぎないのだから。世界は広く、多文化で知らないことがたくさんある。それを知るために、是非自分の足で確かめてほしい。

ここまで読んでくださり、ありがとうございました。次回はインドネシア編(行く日は未定)でお会いしましょう！

### 2年 SG コース

#### 思修館訪問で課題研究の指導を受けました!!

6月17日(土)に2年SGコースが京都大学の思修館で研修を行いました。思修館は本校の目指す文理融合、異文化統合をよりハイレベルで実践をしている日本で注目の大学院です。現在進めている課題研究について大学院生からアドバイスをしていただく機会となっただけでなく、グローバル課題の解決を目指すロールモデルと接する事で生徒達にとって大変意識を高める機会となったようです。

思修館の方々には本当にすごかったです。やっぱり一番京都まで行ってよかったと思うのは、研究内容をディスカッションできたことです。“研究”ということをよく分かっていなかった私たちに“研究とは”ということや研究の道筋を示してくださったので、今後の研究をともしやすくなったと思います。感謝しかありません！

もっと勉強したい、そう思っている。院生がかっこよかった。私もああいう人間になりたい！というか、なってみせる！明確な目標がみえた。



▲大学院生に指導を受ける生徒

### 3年 SG コース

#### 北陸新幹線サミットに参加してきました!!

6月17日(土)に長野県上田高校で開催された“北陸新幹線サミット”に3年SGコースより9名が参加しました。これは新幹線沿線のSGH等課題研究に活発に取り組んでいる高校12校の生徒が集まり、研究発表や課題に対するディスカッションをすることで互いに切磋琢磨する場です。本校から参加した9名は、意識の高い全国の高校生と交流し、刺激を受けてきました。

とても充実した1日だったと思います。周りの皆がグローバル課題に取り組んでいる人たちなので、自分も積極的に議論に参加できて楽しかったです。他の学校の人たちの発表はどれもレベルが高くて、私も良い刺激を受けました！

忙しい中での参加だったが想像以上のものを得ることができた。まず驚いたのは上田高校の生徒の上品さ、マネジメント力の強さである。司会を含め、道案内やあいさつなど全てのことを私たちのためにしてくれ、私服ということもあってか、とても大人っぽく感じた。



▲ディスカッションの様子

## グローバルのススメ ～グローバル×私～ file2. 吉田 啓悟先生(地歴・公民)

2年生版の第2回目は1年2組担任の吉田先生です。先生の『グローバルな体験』とは……？

ある夏の出来事・・・

「미안 (ミアン)」

彼は、そう言って私に手を差し伸べた。韓国語で「すまない」という意味らしい。既に3本のダンクシュートを決めていた彼の手は赤く腫れ上がっていた。ルーズボールの競り合いでコートに倒れこんだ私に手を差し伸べてくれたのだ。彼の名はキムジョンギュ。次世代の韓国バスケットボール界を担う逸材だそうだ。日本の大学チームが集まる強化試合に招待された慶熙大学(韓国)のエースである。

207cmの長身の割にシュートレンジが広く、動きがしなやかで速い。日本では目にする事が無いような大型ユーティリティプレイヤーに圧倒された。

…あの日から早5年、彼は名実ともに韓国代表のエースとなり、16年ぶりに韓国を世界選手権の舞台へと導いた。私は故郷に帰り、社会科の教員として教壇に立っている。彼は私のことなど覚えてはいないだろうが、私は彼の言葉と卓越したプレイを鮮明に覚えている。アジアのトップレベルを肌で感じることで、世界の広さを知った。そして、自分が日頃目にする世界の狭さを思い知った。「井の中の蛙大海を知らず」とはよく言ったものである。

泉丘高校の皆さんには、ぜひ広い世界を経験し、成長の糧としてもらいたい。まずは、視野を広げることからはじめてみては。

3年SGコース

### 金沢大学の結城教授によるプレゼン講座を受けました!!

6月19日(月)のインテグレートイングリッシュの時間に、「英語プレゼン講座」を受講しました。金沢大学人間科学社会学域国際学類の結城正美教授から、プレゼンテーションにおいて大切なことやスキルを教わりました。すべて英語によるレクチャーでしたが、7月14日の成果発表会に向けて改めて素敵なプレゼンのあり方を学び、モチベーションが高まったようです。

英語で本格的なプレゼンをするのは初めてですが、講義を聞いて心の準備ができたし、英語でのプレゼンが楽しみになりました。改めてプレゼンは一方的ではなく、観客と私たちのコミュニケーションであることを意識して“会話”のようなプレゼンを目指して頑張ります。

自分が伝えたいメッセージは何なのかを今一度しっかり考えて、それを思いながら「心から」プレゼンを届けたいと思いました。ありがとうございました。



▲結城教授の指導を受ける生徒

## グローバルのススメ ～グローバル×私～ file2. 江下 光幸先生(地歴・公民)

3年生版第2回目は3年1組担任の江下先生です。いったいどんな『グローバルな体験』があったのでしょうか…

「お前、韓国行って見ないか？」

高校生の頃、唐突に中学校の先生に声をかけられ(実家が中学校の目と鼻の先だった)、日韓交流事業に参加したのが、初めてのグローバル体験だったと思う。グローバル体験と言いつつも、国内で飛行機も地下鉄も利用したことがなかった自分が、韓国で初めて利用することができ、感動したことがまず思い出されるのだから微笑ましい。ホームステイ先の家族の幅広い教養に触れ、朝鮮総督府の解体を目の当たりにし…と語りだせばきりが無い。端的に韓国での経験から自分が得て、その後も大事にしているのは、違いや誤解、言語も含めて丸ごと「楽しむ」ことだ。

大学生・大学院生の頃は、バイトして最低限の旅費をつくったら、すぐにアジアを中心にあちこち旅をしていた。傍から見れば変な奴だったと思うが、これも純粋に「楽しむ」ためだったのだなとこの歳になると感じる。この頃の旅の経験は期せずして現在の自分の仕事に非常に役立っているのだから面白い。あまりに海外に行っていたので、教授に「たまには自国の首都で本を買って自国の書籍で勉強しなさい。」とからかわれたのは今考えれば褒め言葉だったのか？グローバルと聞いて、私みたいなひねくれ者は「大げさな」と思ってしまふ。そんな大きな言葉を使わなくても「楽しむ」ことができれば、誰でもグローバル体験はできるし、グローバルな存在なのだと思う。のちに私に声をかけてくれた中学校の先生に何で自分に声をかけてくれたのか聞いたところ、何でも「楽しむ」タイプと思われていたらしい。今目の前にあることがパッと見、楽しくなくても、楽しもうとする姿勢や表情は自分に面白いものをもたらしてくれるようだ。





